

「今の快適」に、満足しない。

株式会社コロナ

石油暖房機器・エコキュートのパイオニアが

「銅」と歩んだ90年

1937年、石油コンロの製造からスタートした株式会社コロナは、石油暖房機器のトップメーカーとして業界を牽引してきた。2001年には「エコキュート」を世界で初めて製品化するなど、その技術力には定評がある。2027年に創業90年の節目を迎える同社の歩みと展望に迫った。



▲本社の歴史展示ホールに設置されたエコキュートカットモデル

＝エコキュートの生産拠点

取材はまず、エコキュートの生産拠点である長岡工場から始まった。エコキュートは空気の熱でお湯を沸かす省エネ給湯機で、戸建て住宅を中心に幅広く普及している。

70年の歴史を持つ同工場では、昨年導入された6台の大型プレス機が稼働していた。黄色のロボットアームが材料を移動。何度かプレスしてエコキュートの外装が仕上がる。人の目による念入りのチェックを経て、組み立てから梱包までを一貫生産する体制だ。

「少しでも生産性を高め、より良いものを提供できています。おかげさまで生産も着実に増えています」

そう語る長岡工場長の久保田忍さんによれば、ロボットの設計や組み立ても自社で手がけるというから驚かされる。技術革新が進む一方、機械を扱える人材は減っているそうだ。

「今、90周年を前にエコキュート開発の歴史

素なので変色せず、銅のきれいな色が保たれます」

原さんの言葉通り、ろう付けを終えた熱交換器は銅の美しい色に輝いていた。銅の塊ともいえる熱交換器の完成だ。

＝受け継がれる創業精神

「あの時『できません』と言っていたら、今の自分ではなかったと思います」

取材の締めくくりに訪ねたコロナ本社で、代表取締役社長の大桃満さんに話をうかがった。入社以来、経理一筋でキャリアを重ねた大桃社長の転機は30歳のときだった。決算業務全般の統括を打診され、「やります」と即答したそうだ。以来実績を積み、今年で社長就任5年目を迎える。もうすぐ会社が90周年を迎えることへの思いをたずねた。

「先人たちが積み上げた歴史には相当の重みがあり、それを背負うプレッシャーはあります。ただ、90年はまだ通過点で、その先があるという思いが非常に強いですね」

これまでも豪雪や水害、地震を乗り越えるたびに、「誠を尽くして努力すれば不可能はない。必ず道は開ける」という創業者の言葉が社員の心を支えてきた。今も各事業所に掲げられるこの理念は「コロナイズム」として社内を受け継がれている。

＝機能を超えて、心が弾む製品を

パイオニア精神あふれるコロナが追い求めるのは、技術や数字だけではない。

「これまで『らく（楽）』を目指してきましたが、『たの（楽）しい』製品があってもいい



株式会社コロナ代表取締役社長 大桃満さん

をまとめていますが、当時を知る人がなかなかいないんです。泥臭い話もあるはずなので、そうした記録をきちんと残したいと考えています」

ものづくりが大好きだと語る久保田さんは、後進の育成にも人一倍の思いを寄せていた。コロナで培われたものづくりの精神を受け継ぐ人材が、今求められている。

＝銅が「熱交換器」に生まれ変わる

続いて、長岡工場から車で30分ほどの栃尾コロナへ。同社には石油給湯機の熱交換器を製造する工場がある。1973年に「石油瞬間給湯機」を発売して以来、石油給湯機はコロナの主力製品であり続けている。一連の製造工程を工場長の原伸樹さんが案内してくれた。銅のパイプが機械でくねくねと曲げられる様子からは、しなやかで加工しやすい銅の特性が実感できる。人の手による細かな作業も加わり、徐々に熱交換器の形になっていく。

「無酸化炉では、ろう材をセットした熱交換器を800℃で熱してろう付けします。無酸

のでは、と考えました」

暮らしを楽にする機能的な満足に加え、心がはずむ体験も届けたい。その思いから生まれたのが、J R東日本とコラボしたSL形の石油ストーブや、アウトドアブランド「OUTFIELD（アウトフィールド）」だ。屋内用の燃焼機器を屋外へ持ち出すことには、安全面の懸念から当初ためらいもあったという。

「当時、アウトドアで使われていたストーブは海外製品ばかりだったので国内メーカーとしてのプライドもありました。何より、社員の強い熱意に背中を押されましたね」

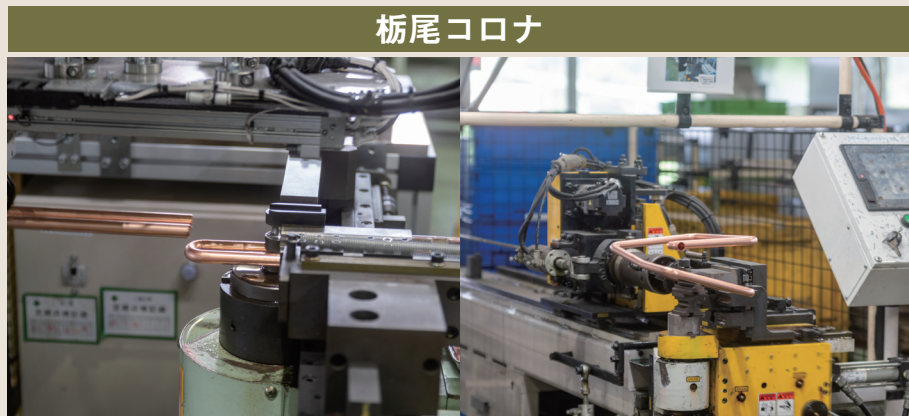
こうして2023年に発売されたアウトドア用のストーブは売れ行き順調。新製品のポータルエリアコンもキャンセル待ちが出るほどの人気ぶりです。新たな挑戦は確かな手応えとなつて返ってきている。

＝銅の未来と「次の快適」

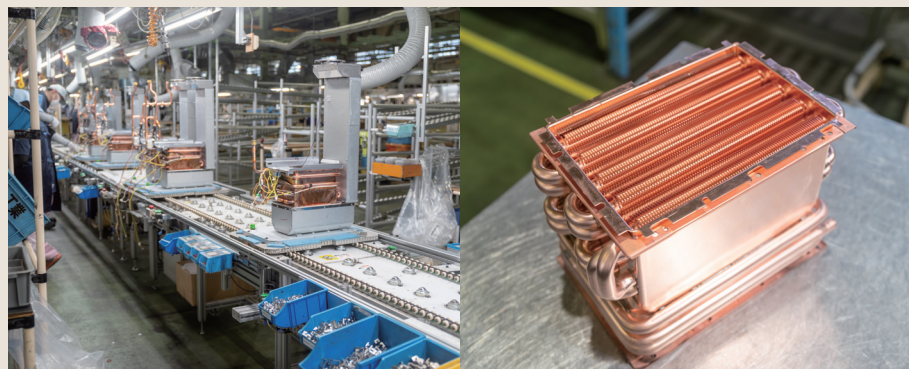
最後に、大桃社長に100周年へ向けた思いを聞いた。

「『脱炭素に貢献する企業』と胸を張れる10年にしたいですね。そして、社員にとって働きがいがあり、より魅力のある会社になっていきたい。それが新たな『次の快適』を生む商品開発につながるはずだ」

脱炭素の流れで製品の主力は石油給湯機からヒートポンプへ移りつつあるが、どちらにも欠かせない熱交換器に銅は不可欠だ。省エネや効率化の観点からも銅は優れた存在であり続けると、大桃社長は力強く語る。創業の精神を胸に、コロナは100周年へ向けた「次の快適」を作り続けていく。



▲しなやかに形を変えつづける銅パイプ



▲いくつもの工程を経て商品になっていく熱交換器



▲エコキュートの外装を作りあげる大型プレス機



▲組み立て前のエコキュートタンク